

# 仕様書

環境部

## 1. 件名

NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／廃プラスチックの高度物性再生の開発技術者養成に係る特別講座

## 2. 目的

NEDOでは、2020年度より「革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発」において、プラスチック製品の資源効率性、廃プラスチックの資源価値を飛躍的に高めることを目的として、材料再生プロセスの高度化技術の研究開発を行ってきた。本特別講座は、このプロジェクト成果を活用する、企業や大学でのプラスチックの高度材料再生技術開発の中心を担う人材を育成し、実用化や普及を加速させ、新たな市場の早期創出に繋げることを目的とする。

## 3. 業務内容

「革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発」では、新しい材料再生技術などを用いることにより、環境負荷を抑制しつつ高効率なプラスチック資源循環システムを実現するための基盤技術として、材料再生（マテリアルリサイクル）プロセスの高度化を行っている。本特別講座では、高度物性再生技術の社会実装を担う人材を育成する。また、多方面の人材の交流を図る等の取組みを通じ、これまで想定していなかった新しい分野、用途となり得る、多種多様な他の専門領域においても、当該技術を担う人材が育つという「好循環」を形成することを目指す。具体的には以下の①～③を一体的に実施する。

### ① 人材育成講座の実施

廃プラスチックの高度な物性再生について、高分子の物理物性（レオロジー、最長緩和時間、結晶構造、メモリー効果等）、その実験手法や解析手法、また、物理劣化の発現メカニズムと物理再生を実現させるための手法に関して、基礎から応用、最新の研究動向まで含めた講義を行い、高度物性再生技術の社会実装を担う人材を育成する。

### ② 人的交流等の展開

人材育成講座の拠点と企業、大学、関係機関等の交流、人的ネットワークの構築を促進するため、シンポジウムやワークショップ等の交流会を開催する。

### ③ 周辺研究の実施

技術分野に関する基礎的研究や、受講者のニーズをくみ取った派生的研究を実施する。希望する受講企業、大学、関係機関等に対して、拠点を活用してサンプル評価や分析・評価手法の検討、及び周辺研究を行い、これまで想定していなかった新しい分野、用途への活用が広がることを目指す。これらの取組みを通じ、更に本格的に検討したい企業に対しては、個別の共同研究へと繋げる仕組みを作る。

#### 4. 期間

NEDO が指定する日 (2024 年度) から 2026 年 3 月 31 日まで

#### 5. 予算

1 年目 NEDO が指定する日～2025 年 3 月	2,000 万円以内/年度
2 年目 2025 年 4 月～2026 年 3 月	2,000 万円以内/年度

#### 6. 報告書

2024 年度末には中間年報の電子ファイル（P D F ファイル形式）を、2025 年度終了後には成果報告書の電子ファイル（P D F ファイル形式）を所定の期日までに提出。

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

以上